

『あしたの雲』 一巻をあらわし、翌明応五年（一四九六年）春、京都にかえつてきました。

たぐひなく心とどめしことの葉に

今は涙の玉ぞつらなる

ふるさと会津へ

こうして、兼載は、連歌師としての地位をたしかなものにしていきました。京都にかえつた後も、吉野、奈良、大坂、伊勢と連歌師の旅は続きます。連歌の指導もあり、自分の勉強もありました。

また、関東をもふたたび訪れ、現在の群馬県や千葉県あたりの大名に招かれたり、各地の神社やお寺をたずねたりしました。福島県でも、白河やいわきの